

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



## 来年に向けたせん孔細菌病対策



- 今年は県下全体としては大発生に至りませんでした。地域によっては重症園が認められました。本病への対応は今後も続け、来年に向けて防除対策を徹底しましょう。
- 秋季の作業は、昨年同様、発病枝のせん除と薬剤散布が中心となります。まず、散布前の新梢に夏型病斑が残っている場合はせん除して園外に持ち出します。また、散布液が樹冠内部にも十分に届くように秋季せん定をしましょう。
- 薬剤防除は葉柄痕からの細菌の侵入を防ぐために412 ボルドー液を9月中旬以降、2週間置きに2回散布します。その後、台風などの強風や落葉が遅い際には、さらに1回追加散布します。
- また、耕種的防除の一環として、園環境（密植、排水性、風あたりなど）について見直し、適切な対応の実施により園内衛生の保全に努めましょう。



感染した枝は、健全な芽を1芽以上含めてせん除する

夏型枝病斑(サマーキャンカー)



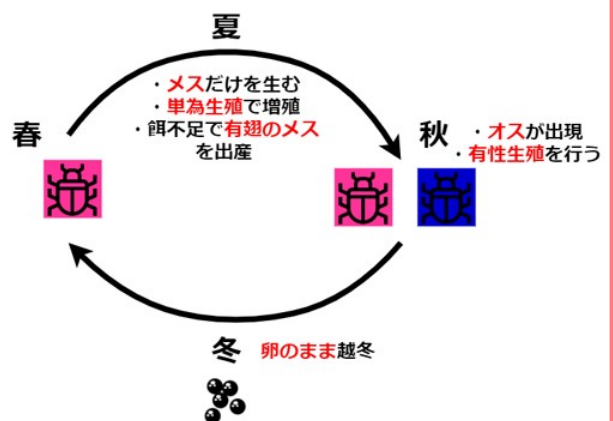
葉柄痕(落葉)



## アブラムシはどこに行った？



- 4～5月にはどこでも見かけたアブラムシをこの頃は見かけません。その後、どこで生育しているのでしょうか？
- アブラムシの1年間は、単為生殖の期間と有性生殖の期間に分けられます。春季の3月から夏季までは単為生殖によりメス成虫から何世代にも渡り急激にクローンが増殖します。
- 夏には、寄生植物をモモ等の果樹からアブラナ科等の草本に変えます。秋以降はこの中からオスが生まれ、有性生殖を行なうので増殖は緩やかになります。メスと交配した後は、卵で越冬し、翌春に孵化します。
- このような生活環をとるため、アブラムシは夏以降、私たちの目に付き難くなります。



アブラムシの生活環  
(生きるものに魅せられてブログより)